

## 第15章 カリキュラム化の試み

インベンション指導研究の最後の課題として、カリキュラムの問題が挙げられる。インベンションの重要性が理解されてもなおなかなか普及しないのは、各单元をつないでいく道筋が見えにくいからであろう。中学校あるいは高等学校三年間を見通したカリキュラムが求められるゆえんである。

しかし、生徒個々の発想力・構想力を育てることを目的とするインベンション指導は、生徒の実態から出発するしかないという一面を持っている。ある学級において個々の「想」の違いに即して展開した実践成果が、そのまま次年度もまた通用するとは限らないのである。作文カリキュラム作成の難しさは、個々の内発的活動と外発的学習刺激とをいかに一致させるかというところにある。詳細な計画を立てれば立てるほど、学習者の実態から乖離して、画餅同然の状態になるということも少なくないのである。

とはいえ、作文教育を改善するには、インベンション指導のカリキュラム研究を続けなければならない。そこで、本章においては、学習時期と学習内容の大枠を作成することにとどめ、各学級の実態に即して変更・差替のしやすい形で提示することにした。

例えば、学習時期については、易から難へのおおよその目安として、「前・中・後期」に分ける程度の緩やかなものとする。この時期区分は、「国語表現」の場合は1～3学期と読み替えてもよい。また、「国語総合」「現代文」「古典」における「書くこと」の指導を想定する場合は1～3年と読み替えてもよい。

「前・中・後期」の分類基準は、①文種では、「生活文・手紙文→文学的文章→論理的文章」（描写から説明へ、説明から議論へ）という流れをベースとすること、②テーマでは、「身近な問題から、地域的な問題やグローバルな問題へ」（近から遠へ）、あるいは「具体的問題から抽象的問題へ」という流れをベースとすること、③これまでの実践経験\*1と生徒の発達段階をもとに、課題の複雑さによる「難易度」を加味して判断すること、の三つである。①については、表現意欲の高い生徒集団の場合や、書くことの必要性が実感できている場合は、論理的文章を優先させても問題はない。

各課題についても、できるだけ複数の事例を示すこととする。時には生徒に選択させることもあろう。年度によって差し替えていくということがあってもよい。大切なことは、第10章で指摘した「想」の形成条件に配慮し、それぞれのテーマに即して、指導の手だてを講じていくことである。

期	文種	分野	学習内容・課題	類題	主な教材とインベンション指導法
前	生活	自己 家族 地域	折句や四字熟語を用いて、自己紹介文を書く。	「母校」の紹介。 「我が町」の紹介。 「私の家族」の紹介。	・表現様式の異質性の導入。 ・教師自作モデル作文や、兼好と嵯阿の贈答歌（『続草庵集』）の提示
前	生活	自己	「最初の記憶」	「私の名前」 「私の生まれた日」 「他者から見た私」	・着眼例（自分しか書けないもの）提示。 ・自己存在感・自己有用感の発見を促す。
前	説明	言語	風刺をきかせた定義文を書く。	「落第と留年」など、類義語の比較。	・ピアズ「悪魔の辞典」や「新明解国語辞典」等によって、着眼例を提示する。

前	描写	自然	写真・絵画（林檎や灯台）を描写文に。	実物（水の入ったコップ）を描写文に。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象をよく観察する。</li> <li>・焦点化する部分を明確にする。</li> </ul>
前	手紙	心 社会	芥川龍之介の恋文にお断りの返事を書く。	特攻隊員の遺書に、日本の現状を伝える返信を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況的な場の設定。</li> <li>・手紙の形式の習得。</li> </ul>
前	創作	社会	黒井千次「見えない隣人の「続き物語」」を書く。	芥川龍之介「羅生門」の続き物語を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各段落頭を「ところがある日」「数日後」「次の日」に指定し、事件を発展させる。</li> </ul>
前	書換	社会	木村裕一「あらしのよるに」を新聞記事に書き換える。	横光利一「蠅」を新聞記事に書き換える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語や小説に取材して、事件を報道する文章に書き換える。</li> <li>・逆ピラミッド型の文章構成。</li> </ul>
中	説明	自然 社会	身近な動物の特色や飼いか方について説明する。	自分の趣味・特技について、魅力・上達法などを説明する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語辞典、歳時記、動物事典等の表現の仕方を比較する。（総説と各説の構成。）</li> <li>・時間・空間など説明の順序を理解する。</li> </ul>
中	描写	心 家族	小川国夫「物と心」を「兄」の視点から書き換える。	芥川龍之介「蜜柑」を、「蜜柑」の視点から書き換える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点人物を転じる。</li> </ul>
中	創作	社会	一枚の写真・絵画（人物画）から物語を作る。	複数の写真・絵を組み合わせて物語を。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面上の人物関係や葛藤を想像する。</li> <li>・安野光雅「旅の絵本」</li> </ul>
中	創作	自己	私の「かげら探し」の物語を創作する。	「かげら」を主人公とした物語を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルヴェスタイン「ぼくを探しに」</li> <li>・書き出し例の提示</li> </ul>
中	手紙	心 社会	「エリスから豊太郎へ」あるいは「豊太郎からエリスへ」の手紙	「先生からKへの手紙」あるいは「Kから先生への手紙」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」</li> <li>・登場人物に成り代わって手紙を書く。</li> </ul>
中	随筆	地域 社会	「存外不便なもの」	「存外楽しいもの」「存外素敵なもの」「私の発見」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺田寅彦「柿の種」</li> <li>・「枠組み作文」の活用。（「存外」による意外性の発見。範文の型の利用。）</li> </ul>
中	随筆	自己	「私の流儀」を擬能語化して主張する。	「私の座右の銘」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森毅「雑木林の小道—ふらふら—」</li> <li>・「枠組み作文」の活用。（書き出しの工夫。反論先取り型の構文。）</li> </ul>
中	意見	自己 友人 社会	「私の友情論」	「異性間の友情は成立するか」「私の親子関係論」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・右遠俊郎「青春論ノート」による問題提起。（内的葛藤の誘発）</li> <li>・第一次感想による自他の違いの発見。</li> </ul>
中	意見	言語	「若者言葉の是非」	「カタカナ語多用の是非」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二項対立型の問題提起。</li> <li>・反論先取り型の文章構成。</li> </ul>
中	意見	社会	「ペットの安楽死は是非か」	「野良猫にエサをやることの功罪」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の活用。</li> <li>・反論の側から立って書いてみる。</li> </ul>
中	意見	社会	「子ども部屋（個室）は必要か」	「テレビを居間に置くべきか」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内対話、自立と責任、経済的負担など多面的にとらえる。</li> </ul>

中	紹介	言語	「私のお薦めの本」	「これから読みたい本」	・「朝の読書」で出会った本を、他校の生徒に紹介する。(場の設定)
後	随筆	社会 心	マニュアル風エッセイ 「正しい〇〇の仕方」を書く。	「目玉焼の正しい食べ方」	・別役実「正しい風邪の引き方」 ・題名から課題発見の方法を学ぶ。 ・範文の文末表現を活用する。
後	聞書	仕事	「仕事」の話の聞き書き	「二十歳の頃」の聞き書き	・異世代の人と出会う。 ・現在→過去→未来の構成法を応用する。
後	意見	社会	物に仮託して「現代社会問題」について論じる。	「裁判員制度が始まったら」	・「割り箸の立場から環境問題を論じる」など、着想例の提示
後	意見	仕事	「フリーター論」	「NEETはなぜダメなのか」	・実態調査データの提示。 ・親の意見の聞き取り。
後	意見	仕事	「男は仕事、女は家庭」に賛成するか。	「男も育児休暇を取るべきである」	・鹿嶋敬『男と女/変わる力学』 ・新聞の投書記事等。
後	意見	社会	「未成年犯罪者の名前は公表すべきか。」	「少年犯罪の増加」	・「日本の論点」などから資料を提示
後	意見	環境	「原子力発電は是非か」	「隣町にゴミ処理場が建設されることになったら」	・多様な立場(会社、行政、地域住民、動植物の立場など)から考えてみる。

さて、上記の指導計画以外に、どのような作文課題が想定できるだろうか。差し替え可能なテーマ例・文題例を分野別に挙げておこう。<sup>2</sup>

①自己 ・心	<input type="checkbox"/> 私にとって大切なもの <input type="checkbox"/> 自分を色に例えると <input type="checkbox"/> 私を漢字一文字で表すと <input type="checkbox"/> 私をコンビニの商品に例えると <input type="checkbox"/> 自分で自分をほめたいと思ったこと	<input type="checkbox"/> 今までで一番うれしかったこと <input type="checkbox"/> 今までで一番恥ずかしかったこと <input type="checkbox"/> 10年前の私、10年後の私 <input type="checkbox"/> 家族から見た私、友達から見た私 <input type="checkbox"/> 私の一番の宝物
②家族 ・友人	<input type="checkbox"/> 家族の肖像—うちのママは〇〇だ— <input type="checkbox"/> 我が家の常識・世間の非常識 <input type="checkbox"/> 家族(ペットを含む)への感謝状	<input type="checkbox"/> 友人に勧めたい本 <input type="checkbox"/> 友だちから学ぶこと <input type="checkbox"/> 友だちの作り方
③地域 ・社会	<input type="checkbox"/> 電車の中でのマナー(飲食・座り込み) <input type="checkbox"/> 「あつ」(今、気づいたこと) <input type="checkbox"/> この町に住む偉人、この町にある宝物	<input type="checkbox"/> 私の町をどんな町にしたいか <input type="checkbox"/> 旅の思い出—おすすめ町— <input type="checkbox"/> 通学時に見えるもの
④学校 ・教育	<input type="checkbox"/> 小学生に子ども部屋は必要か <input type="checkbox"/> 英語の学習は小学校から必要か <input type="checkbox"/> 土曜日には授業がある方がよい(是非か) <input type="checkbox"/> 夏休みの宿題は中学生にとって必要か	<input type="checkbox"/> 給食か弁当か <input type="checkbox"/> 学校に冷房は必要か <input type="checkbox"/> 茶髪の是非 <input type="checkbox"/> 高校生の化粧について

	<input type="checkbox"/> 定期テストをなくしたら <input type="checkbox"/> 中学生に携帯電話は必要か	<input type="checkbox"/> 「〇〇」という科目はなぜ必要か <input type="checkbox"/> 図書館に漫画をおくべきか
⑤人生 ・仕事	<input type="checkbox"/> 座右の銘とそれに関わるエピソード <input type="checkbox"/> お金と時間とどちらが大切か <input type="checkbox"/> どの人生に共感を覚えるか (伝記の読後)	<input type="checkbox"/> 私の将来—私の考える家庭と仕事 <input type="checkbox"/> これからの人生設計図 <input type="checkbox"/> こんな大人になりたくない
⑥福祉 ・健康 ・生命	<input type="checkbox"/> 食生活で改善したいこと <input type="checkbox"/> ダイエットは必要か <input type="checkbox"/> 私のボランティア体験	<input type="checkbox"/> 身の回りのバリアフリー <input type="checkbox"/> 重症患者への薬投与を中止すべきか否か (「国境なき医師団」の苦渋の決断を読んで)
⑦政治 ・経済	<input type="checkbox"/> NHK受信料の未払いについて <input type="checkbox"/> 夫婦別姓について <input type="checkbox"/> 20歳が成人にふさわしいか	<input type="checkbox"/> 国際紛争と平和 <input type="checkbox"/> 総理大臣の立場で～を考える <input type="checkbox"/> 学歴社会は是か非か
⑧国際 ・文化	<input type="checkbox"/> 初めて来日した外国人をどこに案内するか <input type="checkbox"/> 私の体験したカルチャーショック	<input type="checkbox"/> なぜ「お笑い」がはやるのか <input type="checkbox"/> 本当の国際人とは何か
⑨言語 ・情報	<input type="checkbox"/> インターネットの光と影 <input type="checkbox"/> 喧嘩した友達に謝るときはメールか手紙か	<input type="checkbox"/> 人を励ます言葉、ダメにする言葉 <input type="checkbox"/> 身の回りの略語・メール語
⑩自然 ・環境	<input type="checkbox"/> ゴミの分別、私ならどうするか <input type="checkbox"/> ゴミのポイ捨てと清掃活動 <input type="checkbox"/> 食べ物を残すということ	<input type="checkbox"/> 割り箸を使うことは罪悪か <input type="checkbox"/> 地球温暖化と私の生活 <input type="checkbox"/> 地球滅亡から逃れるには
⑪夢 ・空想	<input type="checkbox"/> 「どこでもドア」が手に入ったら <input type="checkbox"/> 無人島に行くしかないと分かったら <input type="checkbox"/> 余命一週間と宣告されたなら	<input type="checkbox"/> 死ぬまでにしたい五つのこと <input type="checkbox"/> もし一本の鉛筆と一枚の紙しかなかったら <input type="checkbox"/> 大きなホラを吹くとしたら

ここに挙げた文題例のように、生活経験とつながる身近な問題や、人生・社会・自然に関する本質的考察に発展するテーマを収集することによって、作文指導のアイデアはいっそう豊かなものとなってくるのである。

課題の形式も、①自分を物や色にたとえてみるもの、②「もしも…だったら」と空想を広げるもの、③「…の功罪」「…の是非」「…の光と影」と物事を両面から考えさせるもの、④「…から見れば」と立場の明確化を図るもの、⑤「一番…」「最も…」「一枚しかなかったら」などと話題の焦点化を求めるもの、⑥「…か」と問いかけて主題のぶれを防ぐものなど、多彩に設定することが必要である。

こうした多様なテーマと多彩な課題形式とを組み合わせ、さらに表現形態(文種)に工夫を凝らすことによって、生徒の「想」の形成に生きる作文指導を展開することが可能になっていくのである。

